



さくらコットンシリーズ

■苦勞の末の産声
それからがとて大変でした。商品を使ってもらいながらインタビューを繰り返して、商品開発がスタートします。たくさんの方が協力の意味も込めて、使ってくれました。何度も何度も試作して、たくさんの方に意見をもらいながら、凹みながら、そして嬉しい声に元気をもらいながらさくらコットンの商品が生まれました。
今では、ママ★コレに携わってくれた女性達が子どもを連れて、仕事に来てくれています。札幌、中標津、松山、愛知、東京、今治の女性が働いてくれています。私たちは、自らの手で居場所を作り、お金を生み出す手段を見つけました。愛媛県の助成金をもらって、ビジネスコンテストで100万円を運良く手にして、人に恵まれて、まだまだいろんなことが大変ながらも3期目に突入しました。

■これからについて
さくらコットンのピエトリパットは、なにもない日に子宮を温めるために使う今治タオルのライナーです。この商品で、「赤ちゃんが出来た」とか、「生理痛が楽になった」とか、私たちは本当に幸せな仕事を見つけました。きつこの商品が必要とする人はもっとも増えると思っています。女



作業中

性やハンディを持った人も楽しく働けるシステムを、私が居なくなってもなくなるならなように残していきたいと思っています。
夢に向かって、これからも私たちは柔軟に変わり続け、挑戦し続けたいと思っています。

特集④ 自分の経験を活かした起業 女性が暮らしやすくなるために私たちはきつと 変わる必要がある

今治ママ★コレ 代表 菊川 あずさ (今治市)



■活動がスタート
友だちが欲しくて作った女性の異業種交流会と県外人嫁の会が原型になり「ママ★コレ」ができました。今治市の助成と女性起業家に協賛してもらってフリーペーパーを発行。そして、女性が暮らしやすくなるために、勉強会をして、ソフトな組織を作ってきました。なぜかメンバーの中には発達障害があるお子さんをお持ちの母さんが多く、講座の講師が「NPOぶちすってぶ」の安原優子さんだったことや、ママ★コレの編集をしてくれている豊島吾一君がフリースクールの先生であったことが縁でなんとなくこういう形になっていきました。私たちの役割はあくまでも「前向きで、ちょっと困っている人の役にたつ」というのを決めて活動するようにしました。その中で同時に彼女達に仕事を渡したいと思うようになりました。言葉の端々に働きたいという気持ちと、子育てや家族のことで疲れが出ているのが手に取るようになりました。

仕事を作るといっても、考えても考えても答えは出ません。簡単にもが売れる時代ではないこともわかっていました。ただ、もしできるのなら地場のものを使いたいと思っていました。そんなとき、愛知県で可愛い布ナプキンに出会いました。これが、すごく効果があつて、生まれて初めて、痛みのない生理を経験しました。「これは友だちにも教えなきゃ」と思うと同時に「今治タオルならもっと気持ちがいいだろうな」と思いました。そして、このことをキッカケにさくらコットンの試作一号が生まれ、「さくらコットン」が始動することとなったのです。



さくらコットンをはじめて3年、ママ★コレをはじめて5年。そして、北海道から越えてきて10年になりました。私は愛媛に来て本当に良かったと思っています。
私が、39年生きてきて、人並みに苦勞したことも、大変だった子宮内膜症の経験も、全部が無駄にならなかったことが私にとってすごく救いになりました。この会社は、今治であつたからこそ、できたと思っています。



さくらコットン

(c) Reiko